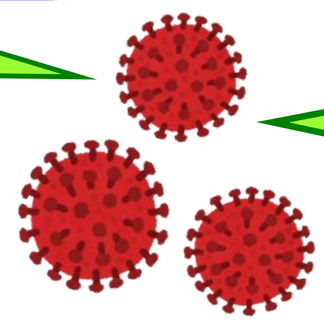
新型コロナウイルス ～感染対策の取り組み～

＜部門＞ 感染制御部

コロナウイルスとは？

人に感染するものは、今のところ7種類あります。
そのうちの4種類がいわゆる風邪の原因となります。

2つが動物からの感染として流行した・・・
SARA（サーズ）とMERS（マーズ）です。

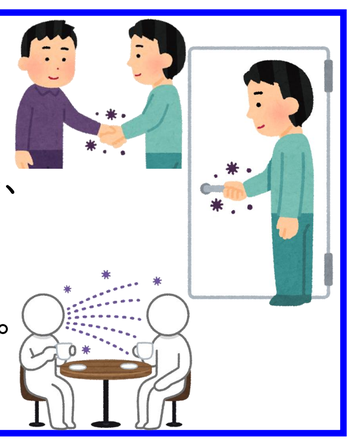


最後の1つが2019年12月に中国武漢で新たに確認された新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）です。
この感染症が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と言われます。

感染経路

- 接触感染
  - 感染者の体液（唾液や排泄物 など）に直接触れて感染します。
  - 感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れてウイルスが付き、別の人がその物に触りウイルスが手に付着し、その手で自分の口や鼻、目を触り粘膜から感染します。
- 飛沫感染
  - 感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫と一緒にウイルスが放出され、口や鼻から吸い込む、口や鼻、目の粘膜に付着し感染します。

※健康な皮膚から体内に入り込むことはできず、表面に付着するだけで感染はしません。



潜伏期間と感染期間

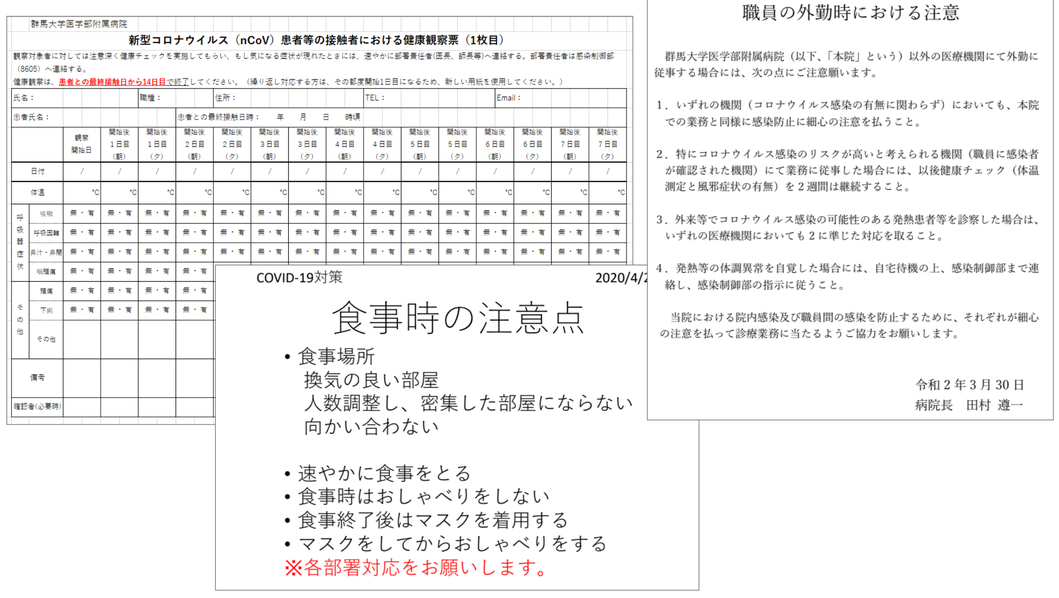
- 潜伏期間は1～12.5日（多くは5～6日で発症）とされています。
- 人に移してしまう可能性があるは発症の2日前から発症7～10日程度と言われています。
- 最も感染力があるのは発症前2日～発症直後といわれ、発症後からは感染力が低下します。

対策

- 発症前から感染力があるため、マスクを着用し飛沫を抑えましょう。
- こまめな手洗いやアルコールによる手指の消毒をしましょう。
- 色々な人が触れる場所は、毎日清掃しましょう。
  COVI-19はプラスチックの表面で最大3日確認されますが、拭き取り消毒を行うことでウイルスを無くすことが大切です。

当院の対策

- 職員は毎朝体温を測定し体調をチェックするなど、自己管理を行い業務に従事しています。
- 職員間での感染を防ぐため、食事時の注意を呼び掛けるなどしています。職員同士で濃厚接触者が発生し、業務に支障が出ないよう最大限の注意を払っています。
- 医師の外勤先での注意点や対応について周知徹底を行っています。



群馬大学医学部附属病院

新型コロナウイルス（nCoV）患者等の接触者における健康観察票（1枚目）

観察対象者に対しては注意深く健康チェックを実施してもらい、もし気になる症状が現れたときには、速やかに部署責任者(医長、師長等)へ連絡する。部署責任者は感染制御部（8605）へ連絡する。
健康観察は、患者との最終接触日から14日目で終了してください。（繰り返し対応する方は、その都度開始1日目になるため、新しい用紙を使用してください。）

氏名：　職種：　住所：　TEL：　Email：

患者氏名：　患者との最終接触日時：　年　月　日　時頃

		観察開始日	開始後1日目（朝）	開始後1日目（夕）	開始後2日目（朝）	開始後2日目（夕）	開始後3日目（朝）	開始後3日目（夕）	開始後4日目（朝）	開始後4日目（夕）	開始後5日目（朝）	開始後5日目（夕）	開始後6日目（朝）	開始後6日目（夕）	開始後7日目（朝）	開始後7日目（夕）
日付		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
体温		°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C
呼吸器症状	咳嗽	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	呼吸困難	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	鼻汁・鼻閉	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	喀痰	無・有	無・有	無・有	無・有											
その他	頭痛	無・有	無・有	無・有	無・有											
	下痢	無・有	無・有	無・有	無・有											
	その他															
備考																
確認者(必要時)																

職員の外勤時における注意

群馬大学医学部附属病院（以下、「本院」という）以外の医療機関にて外勤に従事する場合には、次の点にご注意願います。

1．いずれの機関（コロナウイルス感染の有無に関わらず）においても、本院での業務と同様に感染防止に細心の注意を払うこと。

2．特にコロナウイルス感染のリスクが高いと考えられる機関（職員に感染者が確認された機関）にて業務に従事した場合には、以後健康チェック（体温測定と風邪症状の有無）を２週間は継続すること。

3．外来等でコロナウイルス感染の可能性のある発熱患者等を診察した場合は、いずれの医療機関においても２に準じた対応を取ること。

4．発熱等の体調異常を自覚した場合には、自宅待機の上、感染制御部まで連絡し、感染制御部の指示に従うこと。

当院における院内感染及び職員間の感染を防止するために、それぞれが細心の注意を払って診療業務に当たるようご協力をお願いします。

令和２年３月30日
病院長　田村 遵一

COVID-19対策　2020/4/2

食事時の注意点

- 食事場所
  換気の良い部屋
  人数調整し、密集した部屋にならない
  向かい合わない
- 速やかに食事をとる
- 食事時はおしゃべりをしない
- 食事終了後はマスクを着用する
- マスクをしてからおしゃべりをする

※各部署対応をお願いします。

- 不特定多数の人が触るエレベーターのボタンやエスカレーターの手すり、待合の椅子を清掃している場面です。これ以外に、ドアノブや廊下の手すり、外来で使用するクリアファイルなど定期的に清掃し環境の清潔を保っています。

- 防護具の着脱方法についてポスターを作成し掲示しています。
  また、着脱の動画を撮影し電子カルテで全職員が見られるようにしています。

- 対面する場面ではお互いの飛沫防止の為、衝立やビニールカーテンを使用しています。

- 病院入口で来訪者の体温を確認し、発熱者は診療科が個別に対応します。
- 入院患者さんは入退院センターで病棟に上がる前に体温測定を行い、発熱者は診療科が個別に対応します。